

山陽新聞が岡山県デニムの魅力を応援するプロジェクトを発足  
**山陽新聞 創刊140周年記念「LIFE IN DENIM OKAYAMA」プロジェクト**

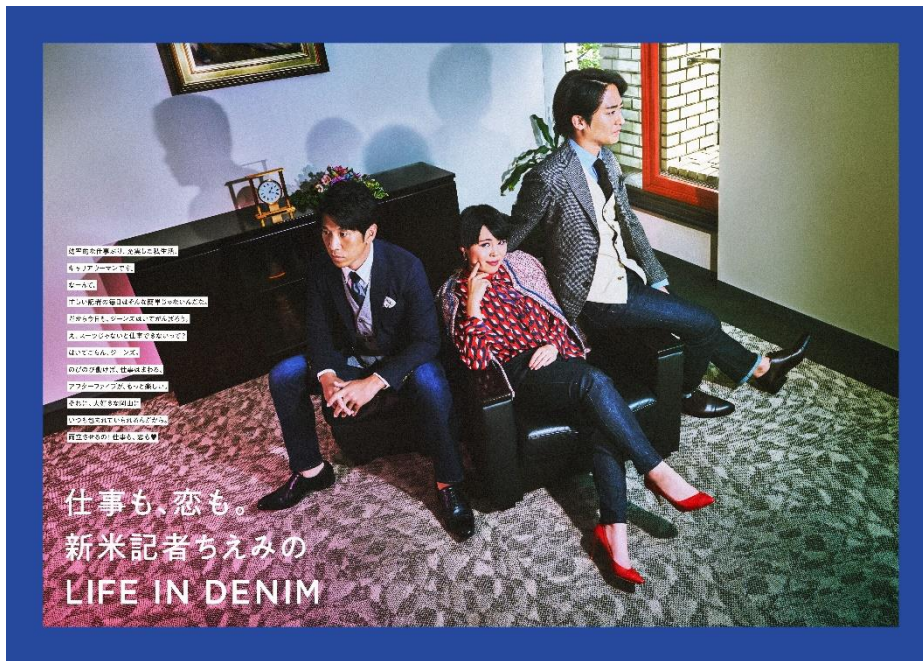
**ブルゾンちえみ with Bが山陽新聞記者に扮した岡山デニムの着回しダイアリー**

**『新米記者ちえみのLIFE IN DENIM』ビジュアル公開**

ブルゾンちえみ with Bが恋愛・仕事に一生懸命な日常のストーリーと共に  
 岡山デニムのオフィスカジュアルコーデをお楽しみいただける着回しダイアリー風のファッション・エンターテインメント企画

**2019年10月26日（土）デニムの日より順次公開!!**

山陽新聞社（本社：岡山県岡山市北区、代表取締役社長：松田 正己、以下「山陽新聞」）は、1879年に創刊して今年で140周年を迎えることを記念し、デニム国内生産日本一である岡山県の魅力を発信するために『LIFE IN DENIM OKAYAMA』プロジェクトを発足いたしました。来たる2019年10月26日（土）デニムの日より、当プロジェクトのスペシャルアンバサダーの“ブルゾンちえみ with B”が岡山県デニムを着回しコーデする『新米記者ちえみのLIFE IN DENIM』を公開いたします。



『新米記者ちえみのLIFE IN DENIM』はブルゾンちえみ with Bが山陽新聞社の記者に扮し、恋愛・仕事に一生懸命な日常のストーリーと共に岡山デニムのオフィスカジュアルコーデをお楽しみいただける着回しダイアリー風のファッション・エンターテインメント企画です。山陽新聞社のWEB・SNS・山陽新聞広告にて順次公開いたします。

■『新米記者ちえみのLIFE IN DENIM』企画概要

名称：着回しDIARY『新米記者ちえみのLIFE IN DENIM』

内容：ブルゾンちえみ with Bが、山陽新聞記者としての日常の様子を、岡山県のデニムを活用した  
 カジュアルコーデとともに着回しダイアリー風に山陽新聞広告・SNS・WEBサイトで順次ご紹介します。

公開日：2019年10月26日（土）から順次公開

URL：<https://c.sanyonews.jp/lifeindenimokayama/>



## ブルゾンちえみ with B

ブルゾンちえみとプリリアンの3人からなるユニット。

### ■ブルゾンちえみ

2017年、キャリア・ウーマンネタの「35億」でブレイク。以後、バラエティ番組を中心に活躍中。日本テレビ「行列のできる法律相談所」「ヒルナンデス」にレギュラー出演中。また近年の出演作として、舞台「フロズンビーチ」映画「蜜蜂と遠雷」に出演。岡山出身で、2018年より岡山県のPR大使を務める。

### ■プリリアン

TBS日曜劇場「ノーサイドゲーム」(コージ)  
NHKドラマ10「これは経費で落ちません！」(ダイキ)。

## ブルゾンちえみ With B 着用！岡山デニムメーカー 3ブランド紹介

### ベティスミス

ブランド：BettySmith、DENIM EORKS、BIG SMITH、EcoBetty

直営店：Betty's Store（児島）、恵比寿工房



国産ジーンズ草創期からジーンズの製造を続けるベティスミスは、50年間にわたるジーンズ製造の技術を活かし、経験豊かな職人たちによる丁寧な仕上げが特徴。児島でもっとも古いジーンズ縫製工場である岡山本社工場は、アメリカでジーンズ製造に使用されているミシン<ユニオンスベシヤル>などさまざまな設備を保有し、昔ながらの製法を継承している。

### ビッグジョン

ブランド：BIG JOHN（Mensジーンズ）、WORLD WORKERS（Mensワークパンツ）  
BRAPPERS（Ladysジーンズ）

直営店：BIG JOHN 児島本店、BIG JOHN TOKYO、BIG JOHN OSAKA



1940年に縫製工場からスタートし、1965年からジーンズの生産を始める。アメリカから届いた1枚のデニムの原反に魅せられ、その時の感動を自らの手でデニムを生み出すまでになったビッグジョンの職人魂は、永久に変わることのない原点である。この、常に最良のものを作ろうとする職人魂が、連綿と受け継がれるなか、集大成として確立されたリーガル理念“QUALITY COMES FIRST”「品質はすべてに優先する」は、現在の若いスタッフにも受け継がれている。

### ジャパングルー

ブランド：桃太郎JEANS、CROWN LABEL BY MOMOTARO JEANS、  
JAPAN BLUE JEANS、SOULIVE、SETTO、Urvin

直営店：桃太郎JEANS 児島味野本店、桃太郎JEANS 岡山店、桃太郎JEANS 青山店、桃太郎JEANS 高円寺店、  
デニム研究所 倉敷店、JAPAN BLUE JEANS 児島店、JAPAN BLUE JEANS 渋谷店 等



藍染めやデニム製品の企画を行う会社として出発。日本古来の青（本藍）の飽くなき追求や、デニムという素材そのものを理解し、その素材の良さを最大限に引き出す為に超ローテクな伝統の技にこだわり、世界中で長く愛される「本物」を作り続けている。桃太郎ジーンズを主軸に事業を拡大し、2011年にJAPAN BLUE JEANSを立ち上げ、日本国内はもちろん、海外25カ国で販売を行っている。2019年月には、児島ジーンズストリートで、デニムで内装を施したカフェ「サロンドデニム」をオープンした。

## ● 国産ジーンズ発祥の地！岡山県

倉敷市児島では昭和40年（1965年）に日本初の国内で縫製されたジーンズが誕生したことから「**国産ジーンズ発祥の地**」と言われています。また、井原市も古くから現在のデニムに類似した裏白小倉織物が作られ、デニムも昭和30年代中頃から生産されていたことから「デニムの聖地」と呼ばれています。これらの地域には、素材から縫製、洗い加工、仕上げまでの業種が集積し、ジーンズ一貫生産のできる産地が形成されています。さらに児島地区では**国産ジーンズの約40%以上が生産されています。1973年に倉敷紡績が初の国産デニム生地を開発**、純国産ジーンズの流通が本格化してから、児島地区には現在も200社以上の関連業者が存在しており、世界でも稀なジーンズ産業集積地です。

参照：岡山産業労働部産業振興課（2019）『おかやまのせんい vol.4』

Japan Blue Jeans Topics（2019）「なぜ、児島がジーンズの街で有名なのか」

## ● 10月26日は「デニムの日」

デニムの日は岡山県のデニム・ジーンズ企業で構成される岡山デニム協同組合と岡山県倉敷市児島の児島ジーンズストリート推進協議会によって制定された、デニムの記念日です。世界で親しまれている岡山デニムの素晴らしさを、より多くの人に知ってもらうことを目的に、「**デ (ten = 10) ニ (2) ム (6)**」という語呂合わせから「**10月26日**」が選ばれました。

**10月26日は  
デニムの日**

岡山県内のジーンズメーカーの社である「岡山デニム協同組合」は、10月26日を「デニムの日」と定めた。県産デニム製品のPRを狙い、日本記念日協会（長野県）に申請し登録された。  
「10 (テン) 2 (ニ) 6 (ム) の語呂合わせで選んだ。小売店などに記念日に合わせた販促促進イベント」  
岡山協同組合 同定

**県産PR狙う**  
岡山協同組合は「県産デニムの素晴らしさを多くの人に伝える機会にしたい」としている。（重成啓子）  
トと呼び掛けるほか、統一のほり作りも検討する。24日に県庁で伊原木隆太知事に記念日制定を報告する。  
岡山県は、国産ジーンズ発祥の地として知られる倉敷市児島地区や、デニム生地製造が盛んな井原市を中心に関連企業が集積。国内外のOEM（相手先ブランドにも生産）を扱ったり、こだわりの独自ブランドを持つメーカーも多い。

（山陽新聞：2013年10月17日 7面掲載）

## ● 世界でも高い評価を得る、品質の高い岡山デニム

欧州のファッションブランドのバイヤーを招いた商談会なども実施し世界に向けて積極的に国産デニムのPRを行っています。また、参加していたオーストリア、スイスにもジーンズを販売しているドイツ企業のギド・ヴェッツェルス共同経営者は「世界中のデニムを知っているが、日本製がベスト。今回は幅広い種類の製品が並び、興味深い」と話すなど、岡山デニムの品質は、世界でも高い評価を得ています。

また、岡山県は、平成23年度（2011年）から、世界的に評価が高いデニム・ジーンズ製品等の販路開拓を支援するため「岡山デニム世界進出支援事業」を実施。県内のデニム、ジーンズ製造事業者による海外展示会出展や、海外販路開拓に向けた人材育成を後押ししています。

### 欧州に国産デニムPR

福岡、井原、倉敷のメーカー  
バイヤー招き商談会



欧州のファッションブランドのバイヤーを招いたデニムなどの商談会が29日、福山市内のホテルであり、地元が販売されるに合わせ、イタリアをはじめ井原、倉敷市、セ、販路拡大を支援し、ア、ドイツ、オーストリアなどのバイヤーが自社の構、よと日本貿易振興センターが主催し、岡山貿易情報センターが開催した。2月1日に発効するEPA、バイヤーは岡山県市駅前中島への工場などを視察、30日にはいなどといった特徴を吟味しながら、各社の倉敷市の3社を訪問する。デニムの関係などを手掛ける社が担当と熱心に取り

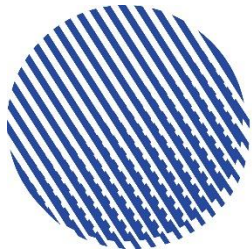
欧州のファッションブランドのバイヤーを招いたデニムなどの商談会が29日、福山市内のホテルであり、地元が販売されるに合わせ、イタリアをはじめ井原、倉敷市、セ、販路拡大を支援し、ア、ドイツ、オーストリアなどのバイヤーが自社の構、よと日本貿易振興センターが主催し、岡山貿易情報センターが開催した。2月1日に発効するEPA、バイヤーは岡山県市駅前中島への工場などを視察、30日にはいなどといった特徴を吟味しながら、各社の倉敷市の3社を訪問する。デニムの関係などを手掛ける社が担当と熱心に取り

担当者と、の説明を聞きながら製品を問うるバイヤーも多かった。オーストリア、スイスにもジーンズを販売しているドイツ企業のギド・ヴェッツェルス共同経営者は「世界中のデニムを知っているが、日本製がベスト。今回は幅広い種類の製品が並び、興味深い」と話している。岡山県市駅前中島への工場などを視察、30日にはいなどといった特徴を吟味しながら、各社の倉敷市の3社を訪問する。デニムの関係などを手掛ける社が担当と熱心に取り

（山陽新聞：2019年1月30日 23面掲載）



## <参考> :「LIFE IN DENIM OKAYAMA」プロジェクトとは



# LIFE IN DENIM OKAYAMA

日本中、そして世界中にファンを持つ岡山デニム。  
世界屈指のデニムづくりの技術は、岡山の誇りです。  
でも、私たちは作ることに同じくらい、  
着ることも楽しめているでしょうか？  
デニムは本来自由なもの。今までの常識にとられない、  
いろんな着こなしや使い方がまだまだあるはずです。  
山陽新聞創刊140周年の今年、  
岡山デニムの可能性を探るプロジェクト、はじめます。

## ■過去のプロジェクト実施事例

### 第一弾：ビジネスデニム

仕事の生産性向上が求められる今だからこそ、服装にだって働き方改革を取り入れることが出来るはずです。  
LIFE IN DENIM OKAYAMAのプロジェクト第一弾は、「オフィスウェアにデニムを取り入れてみませんか」という  
提案です。カジュアルな服装で仕事をする、オフィスの緊張がほぐれ、一人ひとりの個性と能力を発揮しやすくなると言  
われています。毎日難しくても、たまにはスーツじゃない日を作ってみようと、岡山から日本全国へ発信していきます。



新聞30段 ジーンズ型ポスター 2019年5月6日掲載



2019年7月24日掲載



LIFE IN DENIM OKAYAMA ポスター-2019年7月掲出